

青梅市文化財ニュース

第 2 0 4 号

平成 1 6 年 1 0 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 0428-23-6859）

アズと阿蘇神社について

アズとは、「阿須」または「崩崖」と書きます。川の浸食によって、対岸の崖が大きく崩れたところをいいます。文化 7 年(1810)から天保元年(1830)までに書かれた「新編武蔵風土記稿」によりますと、関東には「七阿須」といって、こうした崩崖が 7 つあると書かれています。またこの本の友田村の項に、現在の満地峠付近から南東の羽村まで多摩川沿いに伸びている崩崖を「阿須山」と書いています。現在この崩崖下のゴルフ場になっているあたりを土地の人は、「アズ下」と呼んでいます。関東の七阿須がどこにあるのか、すべてはわからないとしていますが、埼玉県飯能市の阿須と友田の阿須はそれにあたるといっています。飯能市の阿須は、古くからよく知られ、あきる野市引田付近の南側(サマーランド上流)には、「六枚屏風」といわれる崩崖がありますが、ここもアズといえるでしょう。

アズは、万葉のころから人々の心をとらえていました。

“アズの上に 駒をつなぎて 危ほかど ひとづまころを いきにわがする”

万葉集 3589

(断崖の上に馬をつないだように危ないけれど、人妻であるあなたを命懸けで思っている)

これともう一首の阿須に関する東歌の歌碑が、飯能市阿須の市民公園に平成 8 年に建てられました。ここは、入間川の浸食によってできた阿須で、阿須下は広い河川敷になっていて、市民公園として整備されています。友田の阿須山は、「新編武蔵風土記稿」には、「三町ばかりの間、断岸赤壁十百仞、玉川の南岸に峙てり」とあります。距離は、三町(約 330m)より長く約 1km ほど続き、崩崖の高さは 50m 以上あるのではないかと思います。この友田の阿須について、興味深い発見がありました。

河田禎著「武蔵野案内」の中に、羽村の阿蘇神社についての記述があり、「阿蘇神社は『アソ』あるいは『アス』の転訛か同義語ではないか。中略、治水術の発達しなかった上代には何度となく洪水に見舞われ、対岸に屹立する絶壁が対象となって、アス神社と呼ばれる・・・時代が下がり、アスからアソへの移行となったのではないか」と書かれていました。

九州熊本県にある阿蘇神社は、阿蘇山の噴火への畏怖・崇敬からはじまり、数々の神話とともに火口神として崇められていますが、後には水神または航海安全の神としての神格が付与されるようになったものです。その阿蘇神社が、羽村に伝えられた経緯はよくわかりません。阿蘇神社のしおりによりますと、神社は推古朝に始まったとあり、残されている棟札も天文 5 年(1536)からのものがあります。しかし、はじめから阿蘇神社といわれたのかどうかは、疑問の残るところです。天文の棟札に書かれている神社の名前は「安所」、正保 4 年(1647)の棟札には「阿所」と書かれ、「阿蘇」

の字が見えるのは、延宝4年(1676)からです。また、伝説には、水に関するものがいくつもあります。その中に「姥(おうな)の腰掛け」という話があります。「むかし、対岸の友田方砂(かたすな)に『姥(おうな)の杜(もり)』という小祠があった。きわめて清池にして、古は当社の社地であり、仮宮の跡と伝えられる。武蔵国全図には、『鳥居及びアソ宮』の記入がある」というものです。武蔵国全図は、幕末の安政3年(1856)に作られた武蔵国の地図で、多摩川を遡って羽村を過ぎ、河辺の対岸に友田が記され、その南側に台形の山があり鳥居の形と「アソ宮」の記述、さらに台形の山には、斜めの線が引かれて、崩崖が顕されています(図1)。安政3年のころは、阿蘇神社は、友田川にあったと思われるのです。では、友田のどこにあったのでしょうか。現在の羽村側にある阿蘇神社の対岸の山の上(方砂山(かたすなやま))にありました。現在は友田1丁目1009番地の加藤家の敷地内に『大杉様』として『元阿蘇神社』の言い伝えとともにあり、加藤家で大切に祭られています。昭和の初めにお参りに不便だということから、現在地に下ろされたものです(写真1)。尚、方砂山の山頂には、神社の敷石などが残されているということです。

神社がどういう理由で羽村側に移されたものかわかりませんが、現在の阿蘇神社は、村の方ではなく多摩川に向いて建てられ、阿須山と真正面に対峙しています。また、一の鳥居も神社の300mほど下流の多摩川沿いに建てられ、その南東側に広がる土地は、いまはチューリップ畑などになっていますが、かつては羽村の住民にとって肥沃で大切な田地でした。しかし、たびたび多摩川の氾濫で被害を被っていたところでもありました。アズの崩壊は、多摩川の氾濫をさらに増強するものだったことでしょう。阿蘇神社はそういった氾濫を沈めるために阿須に祈った神社だったのではないのでしょうか。

(文責 小川 秋子)



写真1



図1

資料 『新編武蔵風土記稿』 第3巻

『武蔵野案内』 河田禎

『武蔵国全図』

『阿蘇神社のしおり』

『日本「神社」総覧』 上山春平

話者 加藤静一郎氏(友田1丁目1009)